

Z-66-A 簿記論〔第一問〕一解 答一

(黒丸数字は予想配点を示す。)

問 1

(1) 決算整理前残高試算表における残高

(単位：千円)

処理方法	勘定科目	残高	
		借/貸	金額
① 総記法 ②	商品	貸	6,440

② 3分法 ②	繰越商品	借	3,500
	仕入	借	22,560
	売上	貸	32,500
③ 売上原価対立法 ②	商品	借	2,620
	売上原価	借	23,440
	売上	貸	32,500

(2) ≪仕訳≫

(単位：千円)

処理方法	借方		貸方	
	勘定科目	金額	勘定科目	金額
① 総記法 ①	商品	9,060	商品販売益	9,060
	-----		-----	
② 3分法 ①	仕入	3,500	繰越商品	3,500
	繰越商品	2,620	仕入	2,620
③ 売上原価対立法 ①	仕訳不要		-----	
	-----		-----	

(3) 採用された方法ごとの売上原価

(単位：千円)

採用された方法	売上原価
① その都度後入先出法	① 23,540
② 年次総平均法	① 23,454
③ 最終仕入原価法	① 23,460

問 2

《仕 訳》

(単位：円)

日 付	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
X2年3月31日 ②	繰延税金資産	78,000	法人税等調整額	78,000
X3年3月31日 ② ②	繰延税金資産	10,400	法人税等調整額	10,400
	投資有価証券	200,000	繰延税金負債 その他有価証券評価差額金	68,000 132,000
X3年4月1日 ①	繰延税金負債	68,000	投資有価証券	200,000
	その他有価証券評価差額金	132,000		
X4年3月31日 ② ② ②	繰延税金資産	30,600	法人税等調整額	30,600
	投資有価証券	300,000	繰延税金負債 その他有価証券評価差額金	102,000 198,000
	法人税等調整額 繰延利益剰余金	510,000 990,000	繰延税金負債 圧縮積立金	510,000 990,000

Z-66-A 簿記論〔第二問〕一解 答一

(黒丸数字は予想配点を示す。)

問 1

(1) リース取引

① リース取引開始時(X1年4月1日)の仕訳 ③ (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
リ ー ス 資 産	8,510	リ ー ス 債 務	8,510

② リース取引開始期の期末(X2年3月31日)の仕訳 ③ (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
リ ー ス 債 務	1,974	普 通 預 金	2,400
支 払 利 息	426		
減 価 償 却 費	2,128	減 価 償 却 累 計 額	2,128

(2) セール・アンド・リースバック取引

① 資産売却とリース取引開始時(X1年4月1日)の仕訳 ③ (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 累 計 額	30,000	機 械	200,000
現 金	180,000	長 期 前 受 収 益	10,000
リ ー ス 資 産	180,000	リ ー ス 債 務	136,833
		普 通 預 金	43,167

② リース取引開始期の期末(X2年3月31日)の仕訳 ②

(単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 費	32,000	減 価 償 却 累 計 額	32,000
長 期 前 受 収 益	2,000	減 価 償 却 費	2,000
支 払 利 息	13,683	未 払 利 息	13,683

③ リース取引最終期の期首(X5年4月1日)の仕訳 ②

(単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
未 払 利 息	3,925	支 払 利 息	3,925
リ ー ス 債 務	39,242	普 通 預 金	43,167
支 払 利 息	3,925		

問 2

(1) ソフトウェアに関する期末(X1年3月31日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
研 究 開 発 費	40,000	仮 払 金	100,000
修 繕 費	5,000		
ソ フ ト ウ ェ ア	10,000		
製 品	45,000		

(2) ① ソフトウェアに関する期末(X2年3月31日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 費 (売 上 原 価)	200,000	ソ フ ト ウ ェ ア	200,000

② ソフトウェアに関する期末(X3年3月31日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 費 (売 上 原 価)	320,000	ソ フ ト ウ ェ ア	325,000
減 価 償 却 費 (特 別 損 失)	5,000		

問 3

① 機械取得時(X1年4月1日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
機 械	20,823	当 座 預 金	20,000
		資 産 除 去 債 務	823

② 期末(X3年3月31日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 費	5,206	減 価 償 却 累 計 額	5,206
利 息 費 用	43	資 産 除 去 債 務	43
機 械	370	資 産 除 去 債 務	370

③ 期末(X5年3月31日)の仕訳 ② (単位：千円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
減 価 償 却 費	5,390	減 価 償 却 累 計 額	5,390
減 価 償 却 累 計 額	21,193	機 械	21,193
利 息 費 用	63	資 産 除 去 債 務	63
資 産 除 去 債 務	1,400	当 座 預 金	1,600
履 行 差 額	200		

Z-66-A 簿記論〔第三問〕一解 答一

(黒丸数字は予想配点を示す。)

(単位：円)

番号	勘定科目	金額	番号	勘定科目	金額
(1)	預 金	② 25,320,000	(20)	買 掛 金	① 42,273,000
(2)	売 掛 金	① 48,488,000	(21)	未 払 金	① 200,000
(3)	繰 越 商 品	① 21,760,000	(22)	未 払 法 人 税 等	① 6,660,468
(4)	仮 払 金	② 124,000	(23)	未 払 消 費 税 等	② 7,242,000
(5)	投資有価証券	① 23,459,000	(24)	貸 倒 引 当 金	① 6,136,330
(6)	破産更生債権等	② 3,750,000	(25)	社 債	① 24,725,000
(7)	繰延税金資産	① 1,734,800	(26)	リ ー ス 債 務	② 3,080,000
(8)	仕 入	① 428,502,600	(27)	繰延税金負債	① 8,260,000
(9)	商品評価損	① 202,400	(28)	退職給付引当金	② 19,350,000
(10)	退職給付費用	② 6,100,000	(29)	資 本 金	② 60,030,000
(11)	減価償却費	① 1,460,000	(30)	圧縮積立金	② 11,640,000
(12)	一般貸倒引当金繰入額	① 81,330	(31)	その他有価証券評価差額金	① 750,000
(13)	個別貸倒引当金繰入額	① 3,725,000	(32)	繰延ヘッジ損益	② △360,000
(14)	営 業 費	① 161,067,000	(33)	売 上	① 653,089,000
(15)	支 払 利 息	② 20,000	(34)	有 価 証 券 利 息	② 141,600
(16)	為 替 差 損	① 580,600	(35)	為 替 差 益	① 1,245,000
(17)	投資有価証券評価損	② 2,700,000	(36)	法 人 税 等 調 整 額	① 369,800
(18)	固定資産売却損	② 810,000			
(19)	減 損 損 失	① 13,000,000			

簿記論【総評】

〔はじめに〕

全体として例年並みの分量と難易度であり、個々の内容を見ても平易なものからやや難しいものまでバランスの取れた出題であった。極端に難しい部分はないが、計算量は相当であり、多くの仕訳を書く手間も考慮すれば、昨年のように高得点の争いとはなり得ないであろう。全体の合格ラインのイメージとしては、第一問と第二問の合計で55～60%程度、第三問で50%以上の得点ができれば理想的である。

〔第一問〕

問1は商品売買、問2は税効果に係る会計処理を問うものであり、30分かけたならば、問1では9点以上、問2では6点程度はほしいところである。合計で14点以下であれば、第二問で挽回できていなければならない。

予想ボーダーライン：15点～16点

〔第二問〕

問1はリース会計、問2は研究開発費・ソフトウェア、問3は資産除去債務に関する出題であり、いずれも仕訳を問うものであった。このうち、問3は資産除去に係る支出額を見積もる必要があったため、少し難度が高かったといえる。よって、問1と問2で5カ所（12～13点）を確保できていれば十分であろう。

予想ボーダーライン：12点～13点

〔第三問〕

一般的な決算整理型の総合問題であった。第三問としては例年並みの分量と難易度であるが、商品売買関連のいつもながらの難解さに加え、それ以外の個別的な決算整理事項についても、独特な推定の要素などが盛り込まれており、やはり得点を伸ばしにくい問題であったといえよう。

預金（仮払金）、投資有価証券、有形固定資産、リース、退職給付引当金、為替予約、外貨建転換社債型新株予約権付社債に関連する部分を中心に、14～16カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン（〔第三問〕）：23点～26点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：50点～55点（LECの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。